

事業者向け 放課後等デイサービス自己評価表

公表 令和4年4月1日

事業所名 放課後等デイサービス ひなたぼっこ

		はい	どちらとも いえない	いいえ	現在の取組内容・今後の改善目標（内容）	
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	3	3	30 畳の部屋を二つに分けそれぞれ指導訓練が出来ます。又、6 畳の部屋と 8 畳のフローリングがあります。利用児童が多い時は、グラウンドやホールでの利用をしています	
	②	職員の配置数は適切であるか	6		児童発達支援管理責任者:1名 保育士:6名 6名体制（曜日、時間帯により変動有）	
	③	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	5	1	完全なバリアフリーではないが、簡易的なスロープなどは設置してあります。トイレは車椅子利用可、手すりを設置しています。	
業務改善	④	業務改善を進めるための PDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	3	3	PDCA サイクルを心がけ、活動前後で職員ミーティングを行っております。	
	⑤	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	4	2	保護者アンケートの回答を参考にニーズの把握を行っています。日常の保護者との会話などで意見・希望を聞くようにしています。	
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	6		主体事業所のホームページに掲載しています。	
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか			6	現在は保護者と事業所内の評価のみとなっておりますが、今後必要に応じて実施を検討してまいります。
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか		5	1	外部研修にも積極的に参加していきます。
	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	4	2	児童の状況や保護者の意向を確認しています。モニタリングと計画の作成は、半年に一度を基本として行っています。	
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	4	2		
	⑪	活動プログラムの立案をチームで	4	2	チームスタッフで話し合いをして	

適切な支援の提供		行っているか				います。
	⑫	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	3	3		
	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	3	3		ケースバイケースで対応しています。
	⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	6			利用児童のニーズに合わせてサービス計画を作成しています。
	⑮	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	6			確認しています。
	⑯	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	6			職員との打ち合わせを通じ、その日の出来事の確認などを行い支援の共有に努めています。
	⑰	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	6			日々の連絡帳、日誌、支援記録、送迎表を記録しています。
	⑱	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	6			半年に一度を基本とし、必要があれば随時行う事としています。
	⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っているか	3	3		
関係機関や保護者との連携	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	5	1		
	㉑	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか	6			学校とは送迎時、学校の担任と情報交換をしています。 学校との情報共有は、ご家族を通じて連絡を受けています。
	㉒	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか			6	現在該当はありませんが、保護者との連絡確認はしていきます。 必要時には主治医等との連絡体制を取って行きます
	㉓	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相		6		ケースによって、（低学年児）保育所に状況を聴くことにしていますが、現在該当者はいません。

		互理解に努めているか				
	②4	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか			6	必要な場合は提供する用意はありますが、相談支援事業所にお任せしています。
	②5	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	6			こども部会等を通じて、研修会などを行っています。
	②6	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか		2	4	主体事業所の地域交流の行事に参加することもあります。
	②7	(地域自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか	6			こども部会、つみ木の会(保護者参加情報交換サークル)などに参加しています。
	②8	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	5	1		連絡帳や口頭(送迎時)・電話等で報告を行い、場合によっては助言などをしながら共通理解を図っています。
	②9	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか		6		ペアレント・トレーニング等の支援はしていませんが、助言はしています。
保護者への説明責任等	③0	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	6			「重要事項説明書」を渡し十分な説明をしています。
	③1	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	5	1		必要に応じて行っています。
	③2	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	3	3		つみ木の会(保護者参加情報交換サークル)への参加を通じ、情報交換と連携を支援しています。
	③3	子どもや保護者からの苦情について、対応体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に周対応しているか	5	1		苦情投書箱を用意し、苦情相談員も配置しています。 苦情がある場合は適切に対応できる体制になっています。
	③4	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか		6		ひだまりの郷だより(阿南学園会報)に掲載しています。 又、連絡帳でも対応しています。

	③⑤	個人情報に十分注意しているか	6			
	③⑥	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	6			
	③⑦	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか		6		事業所の行事は行いませんが、主体施設の行事に参加し、地域住民との交流を図っています。(ひだまり祭等)
非常時等の対応	③⑧	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	3	3		職員全員が確認できる場所にマニュアル関係は掲示していますが保護者に周知はできていません。
	③⑨	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	3	3		定期避難訓練はしていませんが、災害学習ビデオなどを観て勉強をしています。速報が出た場合は速やかに避難を促しています。今後は定期避難訓練を計画していきます。
	④⑩	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	6			施設内研修を年 1 回実施しています。
	④⑪	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか			6	現在、身体拘束の必要性のある対象者はいませんが、この方法しか手段がない場合、緊急性、非代替性、一時性を検討し組織で決定し、計画にも記載します。
	④⑫	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか			6	現在、該当する児童はいません。間食、昼食は家から持参してもらっています。 必要であれば医師の指示書に基づく対応を取ります。
	④⑬	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	4	2		ヒヤリハット、事故報告書の回覧を行う事と同時に、その事例を共有する事に努めます。